

かんさい

ステージ&カルチャ MON

古典芸能 船場でひたる

先月26日、「古典芸能×近代建築 船場を遊ぼう!」の会場の一つ、山本能楽堂(大阪市中央区)を訪れた。この日、上演されたのは講談師・旭堂南海の新作講談「広岡浅子と船場」九転十起。講談を聞くのは初めてだったが、NHK連続テレビ小説「あさが来た」の主人公のモデルになつた広岡浅子を



広岡浅子 VS 土方歳三 臨場感たっぷり

旭堂南海 at 山本能楽堂

題材にした作品だと知り、興味がわいた。

「商いで扱うのは、汗水垂らして働いた人がもうけるお金。刀を持ってお金を取るために来るなんて、それは間違つてやしませんか」。大坂の豪商に嫁いだばかりの浅子が、金を借りにきた新撰組の土方歳三と対峙する場面では、南海が、臨場感たっぷり



■ 船場地区 土佐堀川、東横堀川、かつての長堀川、西横堀川に囲まれた南北約2キロ、東西約1キロのエリア。豊臣秀吉が大坂城を築城した際、堺や京伏見の商人らを集めて整備したのが始まりとされる。江戸時代から呉服問屋や薬種商が密集し、昭和に入つてからも金融業などの拠点として発展した。商家の旦那衆が淨瑠璃や上方舞などの芸能に親しむ交流の場でもあつた。

に語り、聴衆を引き込む=写真=。

南海は、新撰組の借用書などの史料を丹念に調べ、浅子の伝記に基づいて台本を執筆したという。幕末から明治の時代背景に現代の大坂の風景も絡めながら、張り扇を手にテンポよく話が運び、あつという間に1時間が過ぎた。

語りの芸の力によって、激動の時代を生き抜いた浅子の姿が、生き生きとまぶたに焼き付いた気がする。(今岡竜弥)

商都・大阪の歴史を伝えるレトロビルなどの建物と能、落語、講談などの伝統芸の魅力を発信するイベント「古典芸能×近代建築 船場を遊ぼう!」が大阪市中央区の船場地区で開催されている。11月23日までの期間中、クイズに参加しながら近代建築群を散策する「クロスワードラリー」や野外での能公演、船上茶会などの催しが企画されており、主催者らは「気軽に参加して、船場の街の魅力を体感してほしい」と話している。

「船場ゆかりの芸能を知つてもいい、にぎわいのあるまちづくりの機運を高めよう」と、ビルオーナーらでつくる「船場近代建築ネットワーク」 クロスワードラリー。今年は、や山本能楽堂、大阪商工会議所などが企画し、中央区役所の主催で2013年からスタート。今年で3回目になる。中でも、人気のイベントが「船場アカデミー」では10月10、11の両日に開催された「船場アカデミー」では、の賞品がプレゼントされる。

参加者からは毎年、「大阪に住んでいながら知らない名所があることに気付いた」などの感想が寄せられている。10月10、11の両日に開催された「船場アカデミー」では、観で知られる「生駒ビルヂング」や「芝川ビル」など船場地区の27か所に提示された問題を解きながら、クロスワードパズルを完成させ、解答をはがきで応募すると、抽選でレトロ建築ツアーや招待券などの賞品がプレゼントされる。

一方で、「原作からは、西方に沈む夕日に極楽浄土を思う日想観や、にぎやかに天王寺の風景など、中世の社会状況が読み取れる。」と分析する。

一方で、「原作からは、阿弥の長男・觀世元雅の作とされるが、室町後期以降、長く上演が途絶え、江戸中期に復曲された時には、改作されていた。世阿弥直筆本として伝わる原作には、シテの俊徳丸の妻や3人の僧なども描かれている。

大槻は現行曲について「シテ一人主義」に基づいて、江戸期以降はストーリーをカットし、シテの思

いに焦点を当てる改作がないと再会するまでを描く。世阿弥直筆本として伝わる原作には、シテの俊徳丸の妻や3人の僧なども描かれている。

一方で、「原作からは、西方に沈む夕日に極楽浄土を思う日想観や、にぎやかな天王寺の風景など、中世の社会状況が読み取れる。」と分析する。

一方で、「原作からは、阿弥の長男・觀世元雅の作とされるが、室町後期以降、長く上演が途絶え、江戸中期に復曲された時には、改作されていた。世阿弥直筆本として伝わる原作には、シテの俊徳丸の妻や3人の僧なども描かれている。

大槻自身は過去に5回ほど、原作バージョンでの上演を見比べることで、能の変遷について知つても、られない」と期待を込める。午後2時開演。能楽研究者の天野文雄による解説に続いて、原作版、現行曲の順に上演される。☎ 06-761-80555 (坂成美保)

原作版「弱法師」の一場面

能の変遷知って

伝統芸



レトロ建築群とコラボ

延べ約240人が、船場を舞台にした文楽の作品や幕末の漢学塾「泊園書院」などについて学んだ。同24日には、本町橋船着場で、能楽師・山本章弘らが半能「高砂」を披露する「水辺で能公演」が、11月13日には「サテライトアカデミー」として、相愛大本町学舎で作家・玉岡かおるの講演会「ご寮人さんたちの船場」も開催される。

企画に携わった山本は「船場は視覚、聴覚、味覚の全てを満たし、ゆっくり楽しめる場所。ぜひ魅力を体感してほしい」と話している。

問い合わせは、山本能楽堂 (06-6943-9454)へ。